

有機キュウリ栽培の防虫ネットの目合い

福島県農業試験場野菜部
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜－キュウリー作型・栽培型
分類コード 03-01-18000000
- 2 担当者 山内富士男
- 3 要 旨

有機JAS規格に適合した有機夏秋キュウリ栽培技術を確立するため、防虫ネット被覆栽培の検討をした結果、以下の結果を得た。

(1) ネット被覆は無被覆に比べ、生育が促進され、草勢も高まる。

(2) ネット被覆は商品果収量が1500kg/a程度と多く、商品果率も76%程度と高く、無被覆に比べ大きく上回った。また、台風後の傷果発生はネット0.4mm目合いが最も少なかった。

(3) 発生した病害は炭疽病と褐斑病であり、無被覆栽培では炭疽病が多く、ネット0.4mm目合いとネット1.0mm目合いの栽培では褐斑病が多く発生し、後半に病気が拡散した。しかし、うどんこ病の発生は見られなかった。

(4) アブラムシは無被覆栽培、ネット1.0mm目合い被覆栽培、ネット0.4mm目合い被覆栽培の順に多く発生し、発生時期は5月下旬～7月中旬と8月下旬～9月中旬であった。なお、ネット0.4mm目合いでも持ち込みと思われるアブラムシの発生が懸念されることから、その対策が必要である。

- 4 その他の資料など